



里山に育む生きものたち

32 スッポン

(カメ目 スッポン科)

学名 *Pelodiscus sinensis* (Wiegmann, 1835)

写真・文 / 小菅 次男

本州、四国、九州のものは主として自然個体群に起源し、南西諸島の個体群は、過去に海外から持ち込まれたものに起源すると考えられています。

柔らかい甲羅

最大甲長は38・5cm。他のカメと異なり、甲羅表面は角質化していないので柔らかく、英名の「Softshelled turtle (柔らかい甲羅を持つカメ)」もこのことに由来します。この甲羅の性質のため、他のカメよりもかなり体重が軽くなっています。幼体は腹甲が赤みがかかり黒い斑紋があり、成体の腹甲は白やクリーム色です。背甲は円に近い楕円形であり、このことから「月とスッポン」との言い回しが生まれま

「雷が鳴っても離さない」
元来臆病な動物のため、防御のためにすぐ食いつこうとします。噛みつく力が強く、「雷が鳴っても離さない」という言葉もできました。見かけても決して素手で捕まえたりはしないでください。

魚や貝類、甲殻類、水生昆虫など様々なものを食べます。生息環境はクサガメやイシガメと似ていますが、水中の溶存酸素を多く取り込める仕組みになっているので、水中での長時間活動ができ、普段は水底で泥や砂に伏せたり、岩の隙間に隠れたりしています。鼻と首が長く、鼻先をシュノーケルのように水上へ出して呼吸ができます。上陸はあまりしませんが、稀に護岸などで甲羅干しをする姿を見かけます。

春先に交尾し、5〜8月に水辺近くの陸地に15cm位の穴を掘り、円形の卵2・5cmほどの子ガメが誕生します。

料理

スッポンは日本や中国では、古くから食われていたようです。日本の場合、縄文時代中期の貝塚や弥生時代の貝塚などから発掘されています。美味しい出汁が出るため、スッポンを使った鍋料理や雑炊、吸い物は高級料理とされています。

茨城町の環境基本計画ができてきました。「茨城町の環境のいま」には茨城町ならではの環境の様子が良く述べられています。「生物多様性の中の爬虫類」の項には涸沼で記録されたスッポンが記載されています。実は、環境省のレッドリストにはスッポンが「情報不足」に位置づけられており、その点でもスッポンの記録は大切になってきました。

自然分布は！

日本では本州以南の河川の中流・下流と平地の湖沼などの砂泥質の場所に生息します。しかし、養殖場から逃亡したものに由来する個体群と自然個体群の両方が生息するため、正確な自然分布については不明な点が多いのです。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成26年10月31日現在)

◆総人口 33,852人 (+7)、男 16,933人 (+22)、女 16,919人 (-15) ◆世帯数 12,640世帯 (+42)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています